



# 50万筆突破 感謝のつどい



正林克記（長崎原爆遺族協会会長） 中島正徳（長崎原爆被害者手帳友愛会会長） 谷口稜暉（一般財団法人長崎原爆被災者協議会会長） 井原東洋一（長崎原爆被害者手帳友愛会会長）

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会 2020年9月26日

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会、目標の50万筆達成

「人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。」という被爆者の訴えが共感をもって受けとめられたことがあるとおもいます。

そして、「あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。」は、地球環境の危機と同時に、核兵器廃絶は死活的に緊急課題だと心に響いたのではと思います。

その訴えに応じて、長崎では被爆5団体が呼びかけて、中村法道長崎県知事、田上富久長崎市長が代表賛同人となり「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会が結成されたことは、自治体や自治会など含む広く県民に訴えが届くことになりました。

署名を世界が支持し、世界の流れが後押ししたこともあります。

2017年7月7日の国連会議での「核兵器禁止条約」の採択です。

昨年11月24日のフランシスコ教皇長崎訪問です。爆心地での平和な世界をつくりには「すべての人の参加が必要です。」のメッセージは署名の推進に大きな励ましになりました。「私にも何かできることはないかと」署名に進んで協力してくれる人も多くなりました。

それは、今年4月、50万筆まであと2万ほどになった時、今までの協力してくれた200ちかい団体や個人、教会やお寺や神社、政党や議会、保育所、病院などが署名の要請に応じてくれて50万筆を達成となっています。

被爆から75年です。2016年の被爆5団体呼びかけ人のうち4名が谷口さん、井原さん、中島さん、正林さんが亡くなっておられます。

署名が求めるものは「被爆者はすみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し、廃絶する条約を結ぶことをすべての国に求めます」となっています。

50万筆達成は一つのステップ、抑止力という核兵器の威嚇による政治の在り方が問われている。

核兵器禁止条約の発効は近いが、この運動を止めるわけにはいかない。

被爆者の声が響きます。



いわさき ちひろ 2021年版カレンダー A2判・絵7枚 1400円+税  
1976年、「ベトナムにヒロシマ・ナガサキをくり返させるな」とかかげた原水爆禁止運動のなかで「核兵器廃絶、被爆者援護・連帯のちひろカレンダー」が生まれました。いわさきちひろさんの描く作品の根っこには愛と平和のねがいが込められています。

「被災地にちひろカレンダー贈呈しよう」 ご協力下さい  
『部屋が明るくなったね』『かわいい絵で、すごく癒やされます』と喜ばれています。コロナ禍でなかなか家から出られない気持ちで心細くなっているかもしれない被災地の方へ、今年もちひろカレンダーを届けます。

募金の願い < 郵便振替01810-8-21283 >  
【口座】原水爆禁止長崎県協議会 「被災地カレンダー」と明記ください。※領収書は郵便振替の「控え」に代えさせていただきます。



## 2020年平和大会パンフ

原水爆禁止2020年 世界大会の記録

被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を  
一人類と地球の未来のために

平和の波  
PEACE WAVE  
FRIEDENSWELLE  
VAGUE DE PAIX  
OLA DE PAZ  
ВОЛНА ЗА МИР  
和平的浪潮  
موجة السلام

販価1500円

販価 250円

普及にご協力下さい・連絡は下記長崎県原水協へ

原水爆禁止長崎県協議会理事会ご案内(オンライン)

とき:10月31日(土) 14:00~16:00

主なプログラム

☆記念講演

「核兵器禁止条約発効を力に

新たな運動の飛躍を！」

講師 安井正和日本原水協事務局長

☆意見交換・活動交流

世界大会はコロナ禍での制約、困難をのりこえて「核兵器のない平和で公正な世界」の実現へ、新たな連帯、共同を前進させ歴史的な成功を収めました。禁止条約発効が見えています。新たな運動の飛躍が求められています。人類と地球の未来のために。記念講演視聴を広く案内しましょう。

核兵器のない平和で公正な世界を 県原水協ニュース2020.10.6

〒850-0035 長崎市元船町5-11-402 TEL 095-895-9106 FAX 095-895-9102